琉球大学学術リポジトリ

道路と景観－沖縄本島にみる特性（続）

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学理工学部 公開日: 2013-05-15 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 上間, 清, 渡嘉敷, 直彦, Uyema, Kiyoshi, Tokashiki, Naohiko メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/26076

道路と景観－沖縄本島にみる特性（続）

上　間　　清*・渡嘉敷　直　彦*

Highway Landscape — its characteristics in Okinawa island

by

Kiyoshi UYEMA and Naohiko TOKASHIKI

Synopsis

This paper presents a result of preliminary study on landscape characteristics along the highways on the east coast of eastern part of Okinawa island.

Presented is the second part of the study under the same title. Methology and the factors discussed are almost the same as before.

§1 はしがき

沖縄本島における道路景観の特性を解析するために初期調査研究を実施してきているが，本報告は，前回の報告(1)に続くものである。前回の報告で著者は，道路景観を五つの構成要素に分け，道路景観の形態的分類の一方法を提案し，これに基づいて沖縄本島西海岸沿線の道路景観の形態的分類，各構成要素の検討と問題点の指摘を行なった。今回は，引続き沖縄本島東海岸沿線道路に沿って調査した成果を報告するものである。調査の目的，方法，評価等は，前回と同様であり，詳細は前稿にゆずり，今回は，調査成果の提示と，特徴等の指摘を行なうものとする。

§2 調査の結果

(1) 調査ルート

調査は，昭和48年3月26日，27日の2日間にわたって，沖縄本島東海岸沿線道路について行なった。調査対象路線をFig. 1に示す。第一日目は，石川市東恩納を出発し，国道 329号線，県道名護一国頭線に沿って北上し，国頭村辺戸に至った。第二日目は，糸満市糸満ロータリーより，国道 331号線， 329号線にに沿って北上，前日の出発点である東恩納に至った。この沿

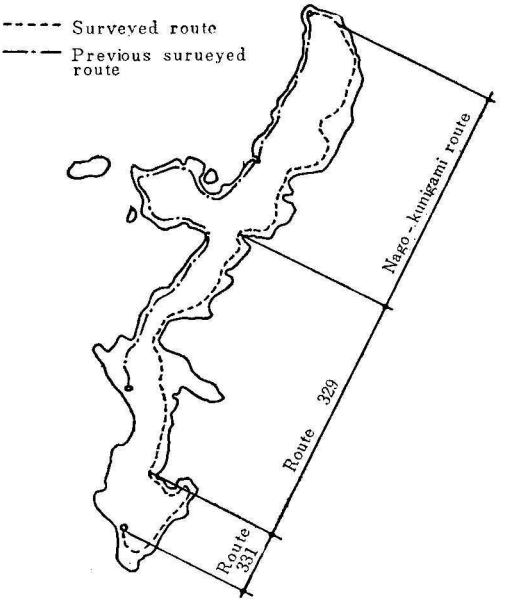

Fig. 1 Surveyed routs

線の自然的特徴をみると，石川を境とする中南部は，大部分島尻層群と琉球石灰岩からなる低丘陵，台地で構成されているのに対し，石川以北の北部は，粘板

受付：1973年10月31日
＊琉球大学理工学部土木工学科

岩，砂岩，国頭レキ層を主とする山岳から成っていて，地形，地質上，沖縄本島中南部と北部とで，性質を異にしている。(2)

(2) 調査の成果

調果の成果は，Fig.2, Fig.3, Table 1, Table 2, photo. 1～6，に示す通りである。Fig.2は，調査対象路線の一定距離ごとの，道路景観の形態的分類を表わしたものであり，これによって道路の実景観を，ある程度表現でき，さらに道路景観の連続的な変化を，概略的に表わすことが出来ると考えられる。Fig. 3は，道路景観の空地面積比率を示したもので，この比率の変化がずマクロ的な意味の景観の変化，単調さを示す。Table 1は，各調査地点の実景観を，空地面積比率，景観構成植生と共に示したものであり，Fig. 2が，路線方向の連続性，変化性を強調しているのに対し，これは，各調査地点の風景描写を強調したものと考えることが出来る。Table 2は，調査路線に見られる植物の種類と，出現頻度を示したもので，道路植栽について論じる資料として有用である。photo. 1～6は，調査路線の景観のうち，比較的良好な景観構図を作っているもの，あるいは，その地域の景観を代表していると思われるものを示した。

Table 1—a Inventory and landscape along the routs

No.	Survey site	Dist. (km)	Classification	Areal ratio (%)		Plant name
				Sky	Land	
(1)	糸満	0	DP−DP2	30	70	
(2)	糸満郊外	0.8	MM−DP	45	55	モクマオ
(3)	名城北	2.4	GNM−GN	50	50	モクマオ，雑かん木
(4)	名城	2.7	DP−N−DP	40	60	ガジュマロ
(5)	小波蔵	3.5	DP−N−GN	45	55	ススキ，雑かん木
(6)	伊原	4.8	GN−DP−GN	50	50	ススキ，ガジュマロ，サトウキビ
(7)	伊原東	6.4	DP−M−DP	40	60	
(8)	米須	7.2	DPM−GN	40	60	サトウキビ，モクマオ
(9)	摩文仁	8.0	GN−M−GN	45	55	サトウキビ，ガジュマロ
(10)	〃	8.8	GN−DP−GN	50	50	サトウキビ
(11)	仲座南	10.4	GNM−GN	45	55	ススキ，雑かん木
(12)	仲座	11.4	GN−DPM−GN	40	60	サトウキビ，ススキ
(13)	〃	12.0	DP−m−DP	35	65	ガジュマロ
(14)	玻名城	12.8	GN−DP−DP	50	50	ガジュマロ，フクギ
(15)	〃	13.4	DP2 −DP	45	55	サトウキビ，モクマオ
(16)	具志頭	13.6	GN2 −DP	30	70	高木
(17)	港川	14.4	GNM−GN	40	60	サトウキビ
(18)	〃	15.0	GNM−S−GN	40	60	サトウキビ，ススキ
(19)	港川東	15.7	GN−DPS−GN	55	45	ススキ，サトウキビ
(20)	ユヒ川	16.0	GN−M−STS	35	65	モクマオ，雑かん木
(21)	堀川東	16.8	GNM−GN	40	60	サトウキビ，ススキ
(22)	〃	18.4	M−N−GN	40	60	サトウキビ，高木
(23)	百名付近	21.6	M2 −M	35	65	ススキ，高木

Table 1—b Inventory and landscape along the routs

No.	Survey site	Dist. (km)	Classification	Areal ratio (%)		Plant name
				Sky	Land	
(24)	志喜屋	22.4	DP−M−DP	25	75	雑かん木
(25)	山里	23.7	M^2−GN	15	85	ススキ，モクマオ，雑かん木
(26)	具志堅	24.8	MDP−DP−GN	35	65	モクマオ，ガジュマロ
(27)	知念	25.8	GNM−GN	50	50	サトキビ，高木
(28)	久手堅東	27.5	M−S−GN	35	65	ススキ，ギンネム，モクマオ
(29)	知名付近	28.0	GN−MS	50	50	サトウキビ，ススキ，雑かん木
(30)	知名	28.5	N−DPM	45	55	モクマオ
(31)	知名	28.6	DPM−DP	40	60	シユロ，サトウキビ，モクマオ
(32)	板馬	30.4	DP−SM−DP	50	50	シユロ，サトウキビ
(33)	久原久近	31.2	GN−M−GN	45	55	シユロ並木，サトウキビ
(34)	久原	32.0	GN−M−GN	40	60	シユロ並木，モクマオ，ススキ
(35)	佐敷東	33.8	GNM−GN	40	60	シユロ並木，モクマオ
(36)	佐敷	35.4	GN−M−GN	50	50	シユロ並木,モクマオ,サトウキビ
(37)	馬天	37.6	DPM−DP	35	65	ススキ，モクマオ，バナナ
(38)	板良敷付近	38.4	GNM−GN	45	55	モクマオ
(39)	与那原	40.8	DP−m−DP	45	55	
(40)	与原	42.1	DP−N−DP	50	50	モクマオ
(41)	与那城	43.2	DP−M−DP	45	55	モクマオ
(42)	南西石油前	44.8	GNM−M−DP	55	45	モクマオ，ススキ
(43)	南浜付近	45.6	GN−DPS−GN	50	50	ススキ
(44)	和宇慶	47.2	DPM−GN	45	55	モクマオ
(45)	奥間	48.0	GN−M−GNDP	60	40	モクマオ
(46)	当間	48.8	GNDP−M−GN	60	40	モクマオ，ススキ
(47)	添石	50.4	GNM−GN	30	70	モクマオ，ギンネム，雑かん木
(48)	久場崎	52.8	GN−mS−GN	55	45	モクマオ，サトウキビ
(49)	熱田	54.7	GN^2−GN	45	55	モクマオ
(50)	渡口	55.7	DPM−m−DP	45	55	モクマオ
(51)	比屋根	56.8	GNDP−M	40	60	モクマオ
(52)	高原南	57.6	GN−m−GN	40	60	モクマオ
(53)	高原	58.2	DP−DP^2	60	40	モクマオ
(54)	照屋	60.0	DP−N−DP	50	50	〃
(55)	美里小校前	61.6	DP−ST−GN	35	65	モクマオ
(56)	松本	62.1	DPGN−m−GN	50	50	モクマオ，雑かん木

Table 1—c Inventory and landscape along the routs

No.	Survey site	Dist. (km)	Classification	Areal ratio (%)		Plant name
				Sky	Land	
(57)	知　花	63.2	GN−N−DP	55	45	モクマオ，ススキ
(58)	登　川	64.6	GNDP−N−GN	35	65	モクマオ，ススキ
(59)	池　原	66.4	GNDP−M−DP	45	55	モクマオ，ススキ
(60)	栄野比	68.0	GN−N−M	35	65	モクマオ
(61)	東恩納	69.0	DP−m−GNDP	50	50	モクマオ
(62)	石川入口	69.8	GN−m−DP	35	65	モクマオ
(63)	石　川	70.6	DPM−DP	40	60	モクマオ
(64)	〃	72.2	DP−GN−DP	40	60	モクマオ
(65)	石川北	73.8	M−M−GN	35	65	モオマク，ススキ，雑かん木
(66)	屋嘉入口	74.6	DPGN−M−S	50	50	モクマオ，サトウキビ
(67)	屋嘉ビーチ	75.4	GN−GN−DP	55	45	モクマオ
(68)	伊芸入口	77.0	GNM−GN	30	70	モクマオ，ギンネム
(69)	伊　芸	78.6	DPGN−M−S	45	55	モクマオ，サトウキビ
(70)	伊芸北	79.4	GN−M−GN	40	60	モクマオ,ススキ,リュウキュウマツ
(71)	金武西	80.2	GN−m−GN	45	55	モクマオ，雑かん木
(72)	金武入口	82.6	DP−DP^2	40	60	モクマオ，ススキ
(73)	金　武	83.4	DP−DP^2	40	60	
(74)	〃	84.2	DP−N−DP	45	55	モクマオ
(75)	中　川	85.0	N−M−GN	30	70	モクマオ，ススキ，雑かん木
(76)	城　原	86.6	GNM−M−GN	50	50	モクマオ，リュウキュウマツ，ギンネム
(77)	漢那川付近	87.2	GN−MS	50	50	リュウキュウマツ,ススキ,モクマオ
(78)	漢　那	88.2	DPGN−GN	30	70	モクマオ,ガジュマロ,その他高木
(79)	福　山	89.8	GNDP−GN	45	55	モクマオ，ギンネム
(80)	宜野座	90.6	DP^2−GN	45	55	モクマオ，シユロ
(81)	松田南	91.4	M^2−DP′	25	75	モクマオ，ギンネム，パインススキ，その他高木
(82)	松　田	93.0	DP−m−DPGN	40	60	雑かん木，その他高木
(83)	松田北	93.8	M′−MS−GN	30	70	リュウキュウマツ,モクマオ,ススキ
(84)	明治山入口	94.6	GN−N−GNDP	45	55	モクマオ，リュウキュウマツ
(85)	明治山北	95.4	M′ M−M	45	55	リュウキュウマツ，ススキ
(86)	潟　原	95.8	M′^{2}−GNDP	30	70	ススキ，サトウキビ，リュウキュウマツ
(87)	久志付近	96.2	M′−N−DP′	40	60	リュウキュウマツ,ススキ,モクマオ
(88)	辺野古	98.6	M′−DP−M′	40	60	リュウキュウマツ，その他高木
(89)	辺野古橋	99.4	M−N−GNDP	35	65	モクマオ,リュウキュウマツ,ススキ

Table 1—d Inventory and landscape along the routs

No.	Survey site	Dist. (km)	Classification	Areal ratio (%)		Plant name
				Sky	Land	
(90)	辺野古キャンプ	100.2	GN−MS−DP	50	50	モクマオ
(91)	辺野古北	101.0	M−M−M′	40	60	リュウキュウマツ,ススキ,雑かん木
(92)	二見付近	103.6	M−M2	40	60	ススキ,雑かん木,リュウキュウマツ
(93)	二見	104.2	MS−M′	30	70	ススキ,リュウキュウマツ,雑かん木
(94)	〃	105.3	GN−M′S−DP	30	70	リュウキュウマツ，ススキ
(95)	大浦	106.6	N−M′S	40	60	
(96)	大浦北	107.9	M−MGN	35	65	サトウキビ，リュウキュウマツ，モクマオ
(97)	瀬高南	108.2	M−N−S	45	55	リュウキュウマツ，ススキ
(98)	瀬高	108.5	N−MS	45	55	
(99)	〃	108.8	DPGN−DP	45	55	フクギ，モクマオ，その他高木
(100)	瀬高北	109.8	M−MS	40	60	高木
(101)	汀間	110.6	DP−MGN	15	85	モクマオ,ガジュマロ,その他高木
(102)	〃	111.4	M2−S	40	60	リュウキュウマツ
(103)	汀間東	112.2	M−M−M	15	85	リュウキュウマツ，ススキ，その他高木
(104)	安部南	114.6	GN−GN2	15	85	リュウキュウマツ,ススキ,雑かん木
(105)	安部	115.4	GN−m−GN	20	80	フクギ，雑かん木
(106)	嘉陽	117.0	M−MGN	35	65	サトウキビ，モクマオ
(107)	嘉陽北	118.6	M3	15	85	リュウキュウマツ，ススキ，その他高木
(108)	天仁屋付近	120.2	N2−GN	20	80	ススキ,リュウキュウマツ,雑かん木
(109)	天仁屋	121.3	GN−M−M′	40	60	モクマオ，ススキ
(110)	有津原南	122.9	GN−M−GN	45	55	パイン，ススキ，リュウキュウマツ
(111)	有津	123.6	GN−M−M	40	60	ススキ，リュウキュウマツ
(112)	〃	125.0	GN−N−M	40	60	ススキ，雑かん木
(113)	有津北	125.3	M−MS	40	60	ススキ，雑かん木
(114)	照久付近	126.6	GNM−GN	45	55	バナナ，ススキ
(115)	照久	126.6	GN−M−GN	30	70	高木
(116)	照久北	127.4	GN3	0	100	リュウキュウマツ，その他高木
(117)	〃	129.0	GN−GNS−GN	15	85	リュウキュウマツ，ススキ
(118)	慶佐次南	129.0	GN−GNS	45	55	リュウキュウマツ,ススキ,雑かん木
(119)	慶佐次	129.4	S−MDP−S	35	65	ススキ，リュウキュウマツ，バナナ
(120)	〃	129.8	MS−M	30	70	リュウキュウマツ
(121)	伊是名付近	132.2	MS−N	35	65	リュウキュウマツ，ススキ
(122)	伊是名	133.0	M−MS	40	60	モクマオ，ススキ

Table 1—e Inventory and landscape along the routs

No.	Survey site	Dist. (km)	Classification	Areal ratio (%)		Plant name
				Sky	Land	
(123)	伊是名	133.8	M^2-S	30	70	雑かん木，ススキ
(124)	平良南	135.2	GN−M−GN	30	70	サトウキビ，タケ，雑かん木
(125)	平良	135.7	DP−GNDP	40	60	モクマオ，フクギ，雑かん木
(126)	川田北	137.8	M′ M−S	45	55	ススキ，リュウキュウマツ，雑かん木
(127)	宮城	139.4	N−GNS	45	55	リュウキュウマツ，パイン
(128)	宮城北	140.2	GNM−GN	40	60	リュウキュウマツ，ススキ
(129)	〃	141.5	GN^3	45	55	パイン，雑かん木，その他高木
(130)	〃	142.1	GN^3	50	50	パイン，雑かん木
(131)	魚	143.9	DPGN−N−GN	40	60	サトウキビ，高木
(132)	魚東	144.2	GN^3	45	55	パイン，その他高木
(133)	大工泊付近	145.8	M^2-M	30	70	ススキ，雑かん木
(134)	〃	146.3	M′S−N	30	70	ススキ
(135)	〃	146.4	$N-M'^2$	40	60	高木
(136)	大泊付近	147.4	M'^2-GN	35	65	リュウキュウマツ，高木
(137)	車南	149.3	GN^2-N	40	60	ススキ，雑かん木
(138)	車	149.6	N−GNS	40	60	ススキ，モクマオ
(139)	車北	150.6	GN^2-GN	40	60	リュウキュウマツ，ススキ，高木
(140)	高江	151.2	$N-GN^2$	40	60	サトウキビ，パイン
(141)	〃	152.2	N−GNM	50	50	ススキ，雑かん木
(142)	高江西	153.3	GN−M−GN	40	60	ススキ，リュウキュウマツ，高木
(143)	新川上流	155.1	GNM−GN	40	60	ススキ，高木
(144)	国頭演習場付近	156.2	M′−M−M′	40	60	リュウキュウマツ，高木
(145)	〃	157.0	$GN-M'^2$	20	80	高木
(146)	高江橋	157.0	GN−M′−GN	0	100	ススキ，高木
(147)	安波南	158.4	M−M−M	25	75	雑かん木，高木
(148)	〃	158.6	M−MS−M	40	60	ススキ，高木
(149)	〃	159.6	M−MS−M	25	75	ススキ，高木
(150)	安波付近	162.4	M−MS−M	40	60	ススキ，高木
(151)	〃	164.2	$N-GN^2$	55	45	ススキ，高木
(152)	安波	166.6	M−STM−M	25	75	モクマオ，リュウキュウマツ
(153)	安波川	167.1	N−MS	40	60	ススキ，高木
(154)	安波北	169.0	$M-M^2$	30	70	雑かん木
(155)	安田西	173.0	MS−M′	45	55	ススキ

Table 1—f Inventory and landscape along the routs

No.	Survey site	Dist. (km)	Classification	Areal ratio (%)		Plant name
				Sky	Land	
(156)	安田橋	174.1	M′−STM′−M′	20	80	高木
(157)	伊部西	176.2	GN−S−GN	35	65	リュウキュウマツ，ススキ
(158)	我地付近	178.8	M′²−M	45	55	高木
(159)	楚州南	181.5	GNM−M′	45	55	ススキ，リュウキュウマツ
(160)	〃	182.3	M−MS−M	45	55	ススキ
(162)	楚州	182.3	MDP−GN	40	60	モクマオ，リュウキュウマツ
(162)	楚州北	183.4	M −S	40	60	雑かん木
(163)	伊江北	185.8	M	40	60	ススキ，リュウキュウマツ
(164)	〃	189.5	M−S−M	45	55	ススキ，リュウキュウマツ
(165)	奥	190.6	S−MST−M	30	70	モクマオ
(166)	辺戸南	194.6	GN−M−M	30	70	モクマオ，ススキ
(167)	辺戸付近	197.5	GN−M²	40	60	モクマオ，ススキ，雑かん木
(168)	辺戸	198.6	M²−S	45	55	リュウキュウマツ，ススキ

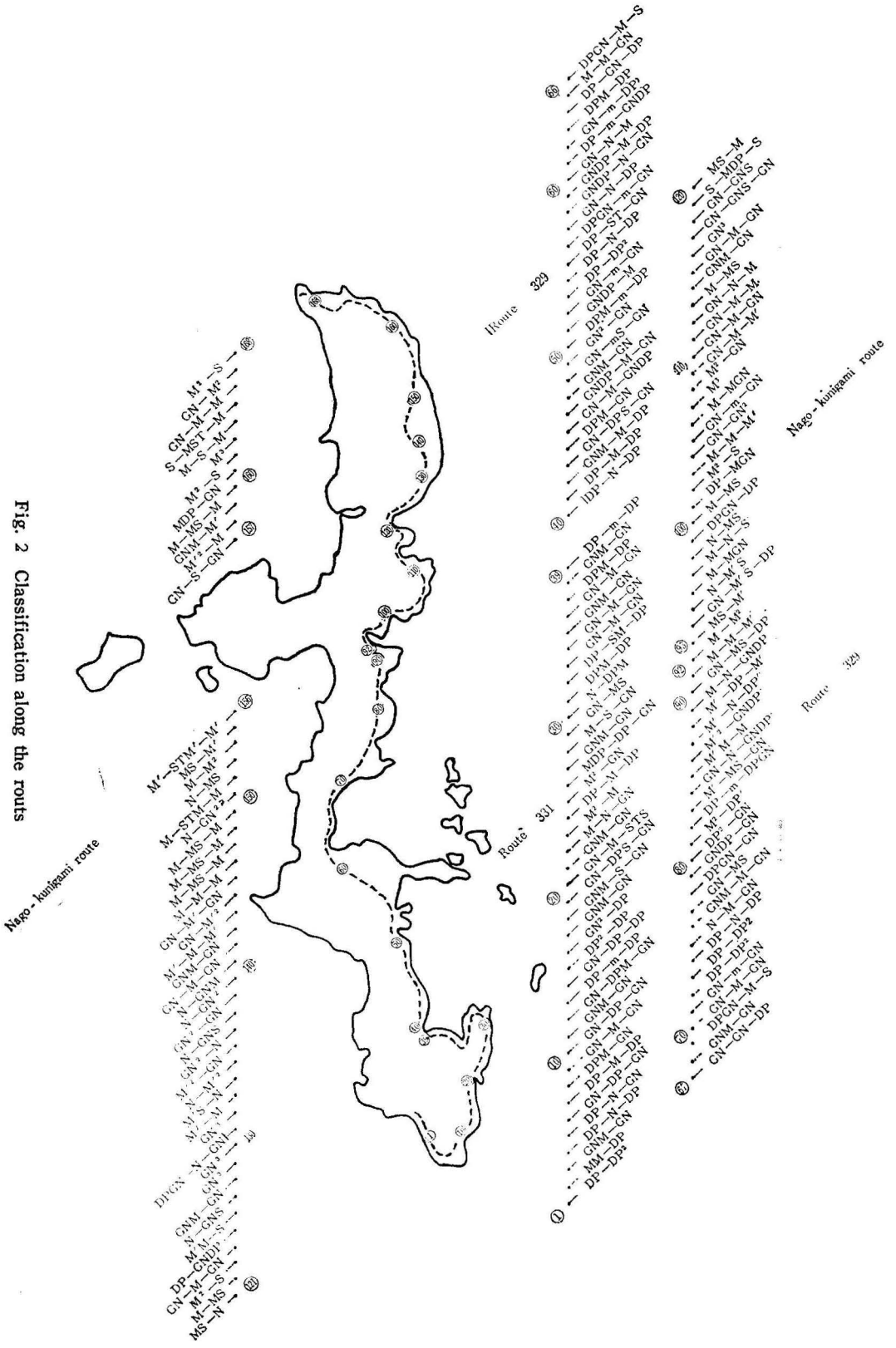

Fig. 2 Classification along the routs

§3　結果の検討

(1)　東西海岸沿線の比較

東西両海岸沿線の景観的特徴を比較してみると，一般に次のことが言えよう。

㋑　本島西側沿線道路は，大部分海岸線に沿って走行しており，海岸線を中心とした主要な景観構図が展開されている。これに対し東側沿線道路は，比較的海岸線から離れた平地，丘陵部，山岳部を走行し，途中海が現われる景観パターンを繰返している。

㋺　本島西側に　本部半島が突き出し，周辺に瀬底島，伊江島，古宇利島，屋我地島があって，路線中これらを含めた印象的ＭＳタイプの景観を見ることが出来る。東側の場合，これと同様な景観中心となる島々はないが，点在する湾越しに，優れたＭＳタイプの景観が見られる。

(2)　個別的検討

東海岸沿線道路の景観の特徴を，前稿に掲げた景観構成要因に関する項目を中心に検討する。

㋑　形態的特徴

Fig. 2に示す調査路線の形態的分類から，次のような事が言えよう。すなわち調査路線の風景形態は，本島中部の石川付近で，大きく二つに分けられる。石川以南の路線はDPタイプ，GNタイプが主であり，形態的変化が比較的単調で，印象的な構図が少ない。これは，周辺地域に高い山がなく，道路が主に平担部，丘陵部を走行し，また人口の集中による開発系要素（DP）の多出現などが相まって，景観中心となる要素が少ないことによると考えられる。Photo. 1，2，3は，この路線の比較的良好な景観構図であるが，出現頻度が少なく，路線の主要な景観になっていない。一方石川以北の路線のうち辺野古付近までは，GNタイプ，DPタイプに加え，途中印象的なMSタイプが出現するようになる。Photo. 4は，このうちの一つを示したもので，道路の前方に展開されている山と入江の重なりが，印象的な構図を作っている。本島北部の名護一国頭線は，大部分山岳部を走行しMMタイプ，GNタイプが主になるが，途中良好なMSタイプの構図が見られ，景観の変化が比較的顕著である。Photo. 5，6はこの路線に見られる景観を示したもので，Photo. 5に示すMMタイプの構図が比較的多い。Photo. 6は，この路線を代表するMSタイプの構図であり，眼下に見える海が印象中心になっている。

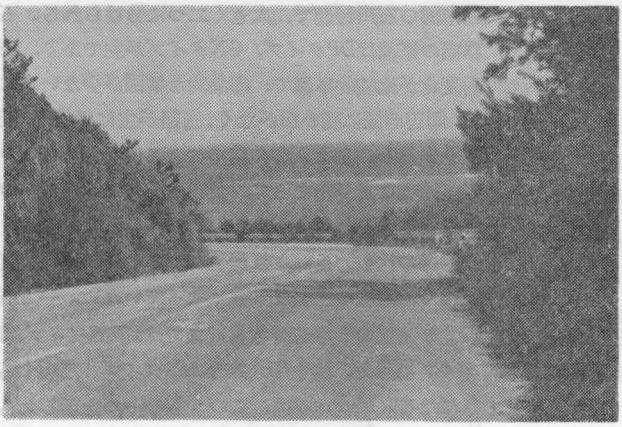

Photo. 1 Landscape on route 331

Photo. 2 Landscape on route 331

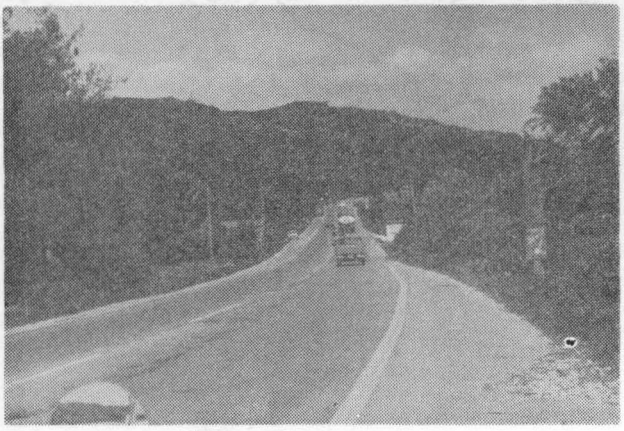

Photo. 3 Landscape on route 329

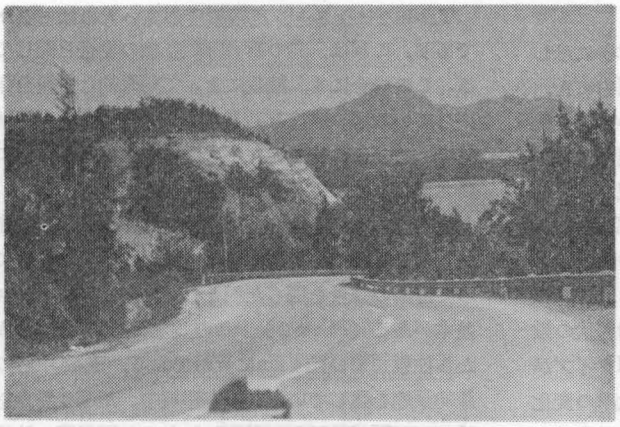

Photo. 4　Landscape on route 329

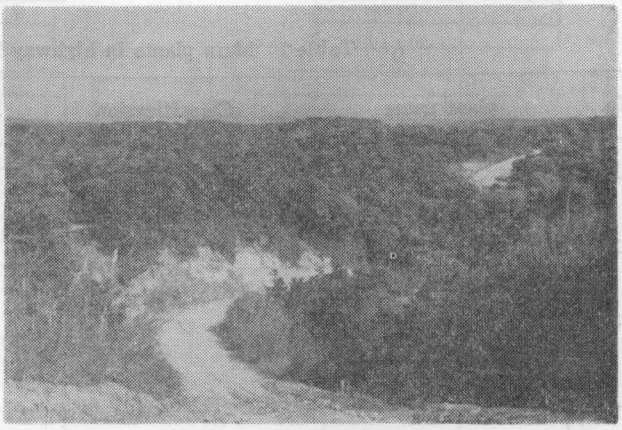

Photo. 5　Landscape on Nago-kunigami route

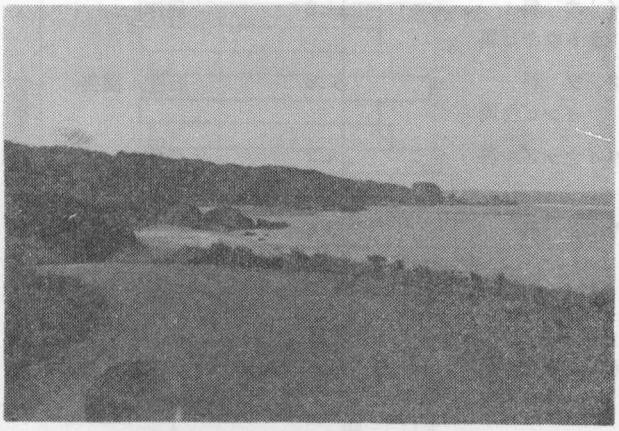

Photo. 6　Landscape on Nago-kunigami route

㋺　空地面積比率

調査路線の空地面積比率を，Fig 3 (*a*)，(b) に示してある。比率変化が比較的顕著な区間を，図中にA，B，Cで指摘してある。Aは国道 331号線の百名～知名付近で，南部の高地部を走行している区間であり，その途中に Photo. 1 に示すMSタイプの景観が出現している。Bは名護—国頭線の瀬高～照久の区間であり，道路は主に山地部を走っているが，途中海，川に接している所もあって，景観的変化も感じられる。Cは同じ路線の高江～伊部付近であり，比較的起伏の激しい山地部を走行している。この区間はMMタイプが主である。先に指摘したように空地面積比率の変化は，マクロ的な意味で景観の変化，単調さを示すもので，B区間はこれに対応していると思われる。

㋩　景観構成植生

Table 2 によると，出現頻度の高いものはモクマオであり，これは，先の西海岸沿線の場合と同じである。この場合にも，植栽によって効果的な景観を作り出しているものがほとんどなく，大部分自生，個別植林である。この他リュウキュウマツ，高木が，特に本島北部山野に多く見られ独特の景観を作っている。また古生層の赤色土壌の上に広がるパイン畑も，農作物であること以外に景観的効果を与えている。植栽によって道路の修景を図った例として，本島南部のシユロ並木がある（Photo 2）。この並木は，331号線の久原から佐敷までの約4 kmに及んでおり，植物中心の印象的景観を呈している。調査路線中，かなり侵食を受けたのり面が見られるが，これらのり面保護，沖縄独得の植物によるローカル色豊かな景観造成の上からも，今後積極的に道路植栽を進める必要があろう。

Table 2　Main plants in highway landscape

No.	plant name	Classification	Frequency (%)	Remarks
1	モクマオ Boehmerionivea	イラクサ科 マオ属	42.3	自生，植林，並木
2	ススキ Miscanthus floridulus	イネ科 ススキ属	41.1	自生，山地
3	リュウキュウマツ Pinus lutchuensis	マツ科 マツ属	25.0	自生，植林
4	雑かん木	———	20.8	自生
5	高木	———	19.6	自生，植林
6	サトウキビ Saccharum L	イネ科 サトウキビ属	14.9	農作
7	ガジュマロ Ficus microcarpa	クワ科 インビウ属	4.8	自生，園芸
8	パイナップル Ananas comosus	パイナップル科	4.2	農作
9	シユロ Trachycarpus fortunei	ヤシ科	3.6	並木，園芸
10	ギンネム		2.4	自生
11	フクギ Garcinia subelliptica	オトギリソウ科 フクギ属	1.8	防風林，生垣高木
12	バナナ Musa sapientum	バショウ科	1.8	園芸

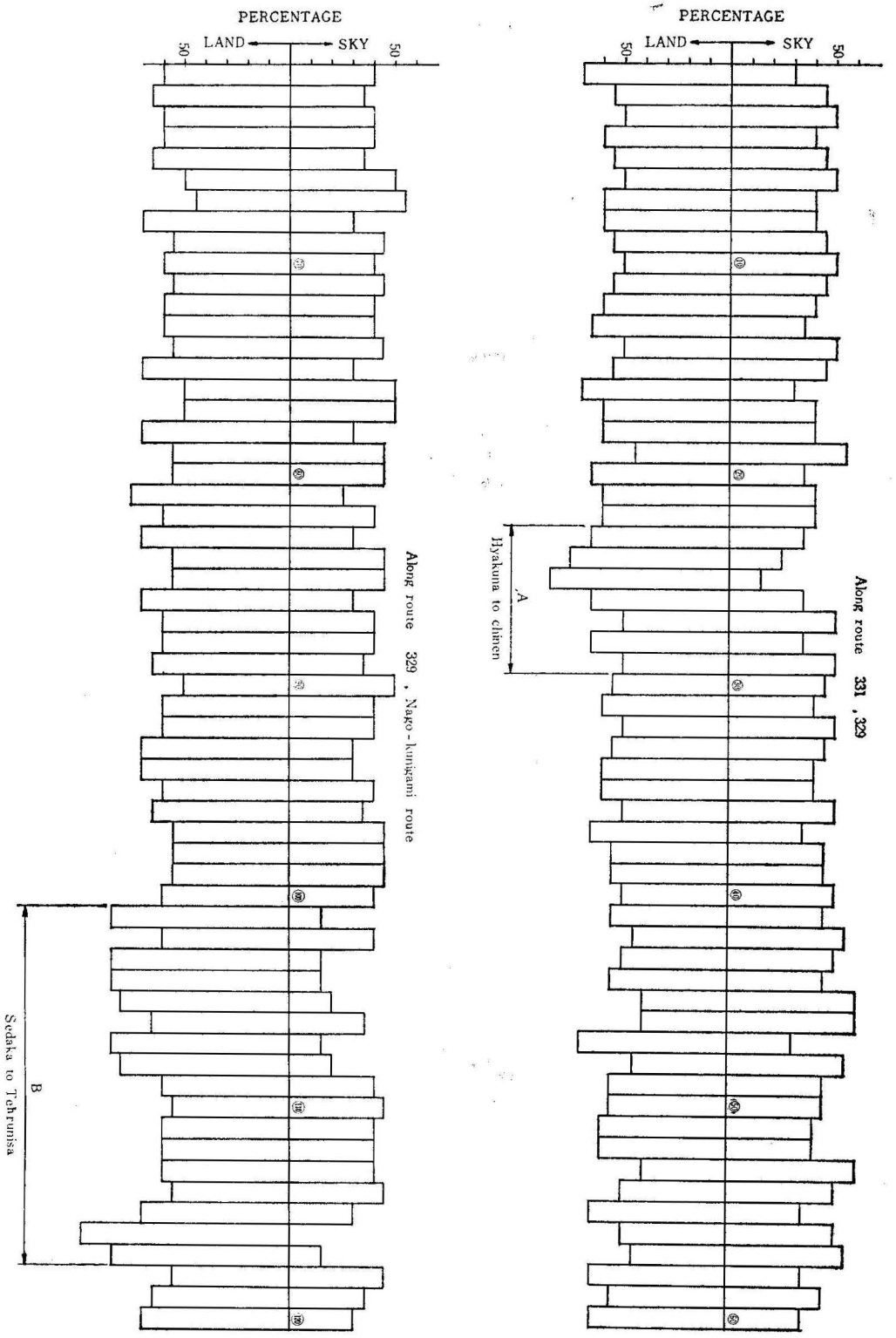

Fig. 3—a Areal ratio between sky and land object

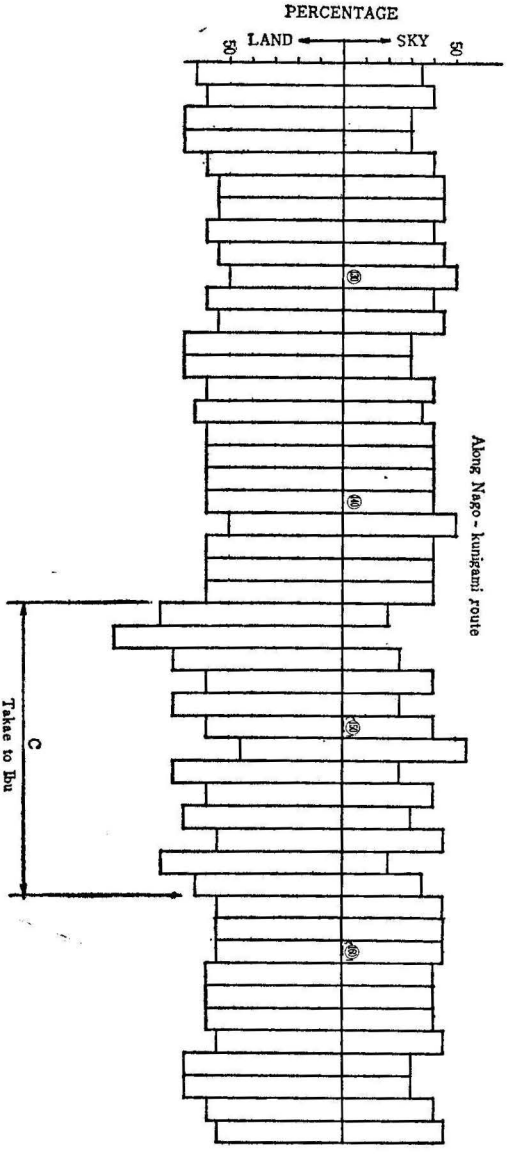

Fig. 3—b　Areal ratio between sky and land object

㊀　景観構成地質

地質の有する色採と構造的特性が，景観的効果を与えることは，前稿に指摘した通りである。本島東海岸沿線を地質の面から観察してみると，天願構造線を境いとする中南部は，古期岩層の琉球石灰岩（乳白色，）島尻群層（灰色），砂レキ層が主であり，これらの地質からなる丘陵，平地部を走行する沿線道路の景観に印象的なものが少ないのは，一つにはこの地質が大きな要因になっていると考えられる。天願構造線以北の東海岸沿線の地質は，国頭レキ層（赤色または褐色）が主であり，道路はこの国頭レキ層からなる低丘陵，台地を走行している。西海岸同様，露出した地層の色採が，景観を構成する色採に変化を与えているが，のり面の侵食，保護工の不徹底など後退的印象を与えている面もあり，景観造成と開発の面で多々問題がある。

㊁　構　造　物

東海岸沿線道路には，西海岸同様景観の中心となりうる構造物は少ない。構造物で景観の中心となるものは，やはり橋梁である。比較的景観中心になると考えられる橋は，本島南部の堀川橋，国頭の安波橋，楚州橋，伊江橋である。これらの橋は，自然景観との調和，形態的な面では通常の印象であるが，北部の三橋はその周囲の環境を考慮すると，地理的位置確認のランドマーク的効果を持っていて，この面で景観中心になっていると言える。橋梁の果す景観的役割については，前紀要[(3)]に述べてあるのでここでは詳論を控える。

§4　む　す　び

前回及び今回の調査で本島について沿岸地域の道路景観の調査を終えることにするが，これまでに調査した東西両海岸沿線の道路景観の特性をまとめると次の事項が指摘できる。

(1)　沖縄本島の海岸線が，主要な景観中心になっている。景観構成タイプとしては，SM—M，M^2—S が主体となる。

(2)　沖縄本島中優れた景観構図として，西海岸沿線については本部半島及び周辺の島々を含んだ MSタイプの構図があって，動的な景観パターンの変化が比較的顕著であり印象的である。東海岸沿線については大小の湾を含んだMSタイプの構図がある。

(3)　本島の植物景観は，モクマオによるモノインプレッションであり，そのほとんどが固有の景観美を発揮しておらず，植物中心の景観構成が少ない。沖縄

には，南国独特の植物種がかなりあり，今後景観開発の面からこれらの植物を主体にした効果的な景観植栽を進める必要がある。

(4) 本島の地質構成は，南中北部の地域別にかなり異なっていて，これが東西両路線の景観構成に特徴を与えている。本島路線中，開発の無原則，自然作用などによる破壊的印象を与えている例がかなりあって，開発と景観造成の両面で多くの問題がある。

(5) 本島路線中，構造物が景観中心となるものはほとんどなく，構造物特に橋梁の景観造成に果す役割を十分に考えた建設のあり方が望まれる。

(6) 良好景観の開発は，観光資源開発のみならず，生活環境造成の面でも極めて重要である。

景観特性の評価は，現在の段階ではその大部分を主観的な方法によらざるを得ないが，今後は景観に関連した心理学的基礎研究等に基づいた客観的な評価法を開発する必要が指摘されている。[4]

沖縄本島の道路景観の特性を解析するための初期研究として，東西両海岸沿線道路を調査してきたが，今後は本島の内陸部の道路の景観調査も必要であると考える。また先島地域は，地形，地質など沖縄本島とは異なった自然環境をもっているので，別に調査研究を進めるつもりである。

参 考 文 献

(1) 上間清：道路と景観，沖縄本島にみる特性，琉球大学理工学部紀要工学編第6号，PP 87～94（1973，3月）

(2) 上間清：沖縄の土木材料，（1972）琉球大学理工学部道路工学研究室

(3) 上間清：渡嘉敷直彦：道路景観構成要素としての橋梁，琉球大学理工学部紀要工学編6号，PP 95～100（1973，3月）

(4) 中村良夫：土木計画学と公共土木施設の景観，土木学会誌，Vol. 56，No. 8，1971 一般参考として

(5) 中村良夫：土木空間の造形，技報堂，昭42

(6) G・エクボ（久保貞雄訳）：景観論，鹿島出版会，昭47

(7) 木野義人：沖縄の自然と地質，地質ニュース，No. 217，昭47

(8) 松井彰：横山美泰：沖縄の地盤，土木学会誌，Vol. 58，No. 10，1973